

## 主催者代表挨拶

西川 京子 文部科学副大臣

本日は、お忙しい中大勢の皆様、「第11回国際教育協力日本フォーラム」にご参加いただき、心より御礼申し上げます。文部科学省を代表して、ご挨拶を申し上げます。

本フォーラムは、外務省、広島大学、筑波大学と文部科学省が主催者となり、開発途上国自身による自立的な教育開発とその自助努力を支援する国際教育協力のあり方について、教育開発に携わる行政官、援助機関関係者、NGO、研究者等が自由かつ率直に意見交換することを目的に、2004年から毎年開催しているものです。

本フォーラムの今回のテーマは、「グローバル化と途上国の教育課題－我が国の教育協力－」としています。そこで、今回のフォーラムでは、グローバル化が途上国の教育に及ぼす影響とグローバル社会における教育の役割について、ご議論いただくことにしました。

国際社会が一致団結して取り組んでいる「万人のための教育（Education for All (EFA)）」は、全ての子供の無償で質の高い義務教育へのアクセスを可能とすることや、教育の質を改善することを目標としています。文部科学省としては、ユネスコへの信託基金の拠出等により、EFAに関する事業を実施し、目標の達成に向けて取り組んでいるところです。そのEFAの目標達成年は2015年に迫っていますが、今後、この「ポストEFA」を見据えた国際教育協力のあり方の検討にあたっては、社会の変化を見据えた方策が必要でありますと共に、そのためにも、グローバル化が教育に与える影響と課題についてしっかりと把握することが重要です。

グローバル化が途上国の教育に及ぼす影響については、先進諸国の民間企業の進出に伴い、新興国や途上国において、高度な知識を有し、先進技術を扱える現地の人材が求められるようになってきたことが一例に挙げられます。途上国から先進諸国への留学生数の増加や交流・協力が進む中、途上国側からは自助努力による高度人材育成を見据えた国際的な学力評価への関心が示される等、教育分野におけるグローバル化が見受けられます。

また、今日、世界では、環境、貧困、人権、平和、開発といった様々な課題があり、それらを国際社会が一体となって解決していかなければなりません。地球規模の課題を自らのこととしてとらえ、その解決に向けて自分で考え、自分で行動を起こす力を身につけるための教育、それが「持続可能な開発のための教育（ESD）」です。

国連総会において、2005年から2014年を「国連ESDの10年」とすることが決定されましたが、これは我が国の提案によるものです。これまで、我が国は提唱国としてESDを積極的に推進してまいりましたが、「ESDの10年」の最終年である本年11月に、愛知県名古屋市及び岡山市において「ESDに関するユネスコ世界会議」を開催することとしています。この会議は、これまでの10年間を総括し、2015年以降のESDの推進方策について議論する重要な会議となります。文部科学省としては、引き続き、ESDの促進を通じて、グローバルな観点から教育の質の向上に貢献していく所存です。

本日基調講演をお願いしているキレミ・ムウィリア元ケニア教育省副大臣は、アフリカの教育課題について幅広い知見を有する方であり、グローバリゼーションと教育について、途上国の経験から紹介していただきます。また、アンジェラ・W・リトル ロンドン大学教育研究所名誉教授には、アジアにおけるグローバリゼーションと教育の相互関係について発表していただきます。

午後のセッションでは、南米、日本、南西アジア出身の有識者の方々にお集まりいただいております。「グローバリゼーションの途上国の教育への影響と課題」と「グローバル社会における日本の国際教育協力の在り方」についてそれぞれの立場から活発にご議論いただく予定です。本日の講演や議論を通じて各国の知見を共有し合い、実りある成果が収められると共に、その成果が各国の教育の質の向上に繋がることを期待しています。

最後に、本フォーラムの実施にあたりご尽力いただいた関係者の皆様に感謝の意を表しますとともに、本日のフォーラムが皆様の今後の活動にとって有意義なものとなりますことを祈念しまして私からのご挨拶とさせていただきます。